



2010年3月期 決算説明会

GS Yuasa Corporation
2010年5月26日

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価

- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題

- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

1. 2010年3月期 決算の概要

経営環境

アジアを中心とした外需を主導に一部で景気持ち直しの動きがみられたものの、デフレの進行や為替相場の円高推移といった経済的マイナス要因もあり、設備投資の回復の動きは弱く、失業率が高水準にあるなど、本格的な回復には至らなかった。

業績の概要

第1四半期は、国内の景気悪化に伴う需要の落ち込みにより大きく低迷したが、海外は中国、東南アジアを中心として堅調に推移し、第3四半期以降、国内自動車電池、国内産業用電池及び電源装置分野いずれも受注が回復したことにより持ち直した。

I - 1. 2010年3月期 決算の概要

業績

(億円)

	2008年度	2009年度	増減
売上高	2,834	2,472	-362
営業利益	143	115	-28
経常利益	110	102	-8
特別利益	19	10	-9
特別損失	57	9	-48
税前純利益	72	103	31
法人税等	36	28	-8
純利益	42	65	23
配当	6円/株	6円/株	

I -1. 2010年3月期 決算の概要

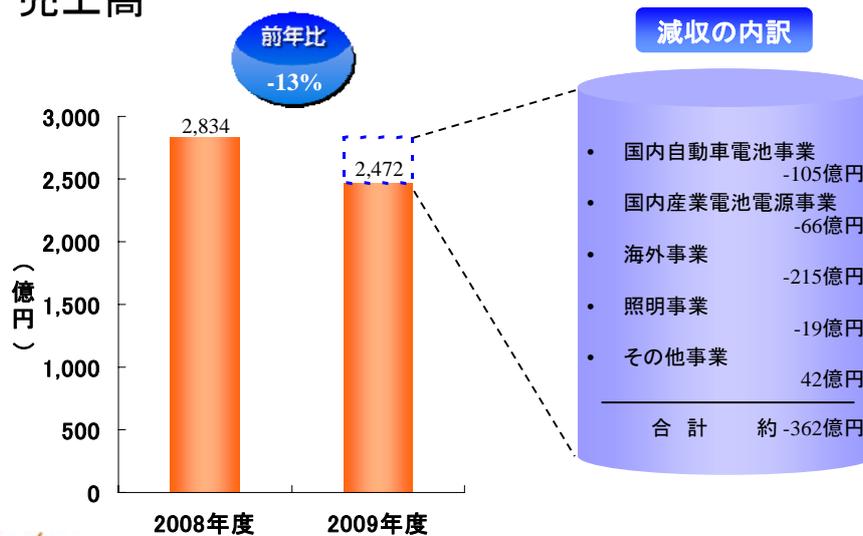
四半期別業績

(億円)

		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
2009年度	売上高	489	604	636	743	2,472
	営業利益	-22	22	42	74	115
上期: 1Qは世界同時不況の影響が継続、2Qはアジアを中心に海外が回復 下期: 国内事業も回復基調						
2008年度	売上高	696	749	724	666	2,834
	営業利益	23	42	35	42	143
上期: 売価水準の維持および鉛価格下落により増益 下期: 世界同時不況の影響により需要低迷						
2007年度	売上高	600	740	836	862	3,037
	営業利益	-15	6	46	82	119
上期: 鉛価格急騰により収益悪化 下期: 値上げおよび鉛価格軟化により収益改善						

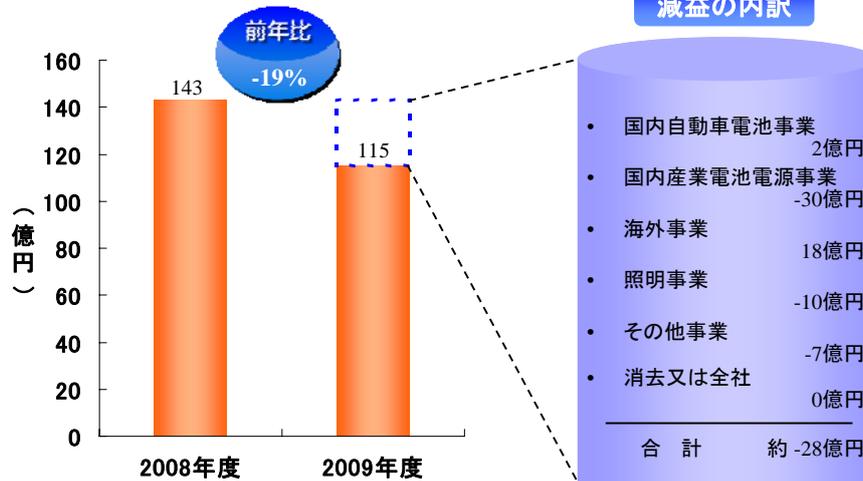
I -1. 2010年3月期 決算の概要

売上高



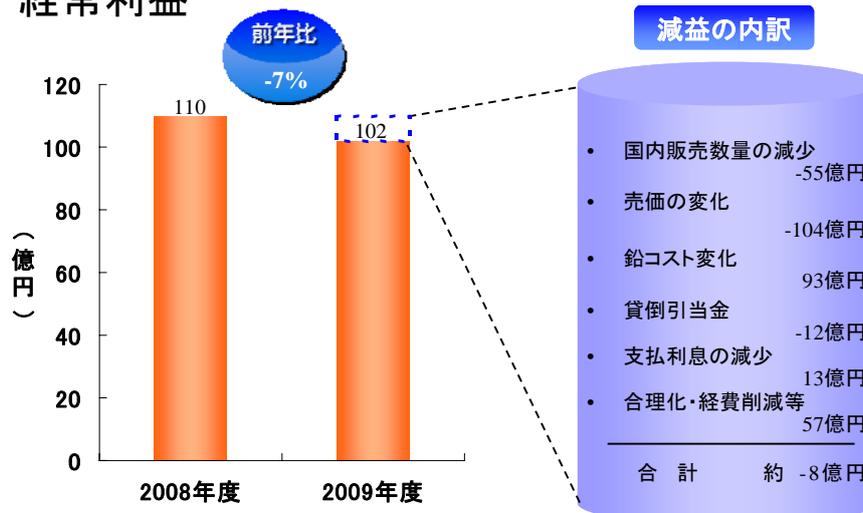
I -1. 2010年3月期 決算の概要

営業利益



I -1. 2010年3月期 決算の概要

経常利益



I -1. 2010年3月期 決算の概要

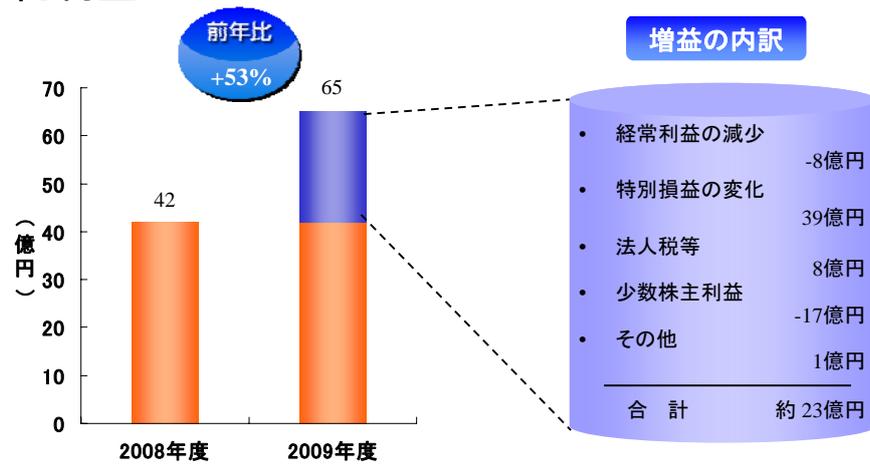
鉛価格の変動



9

I -1. 2010年3月期決算の概要

純利益



10

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

I -2. 2010年3月期決算

セグメント別業績

(億円)

	国内自動車 電池	国内産業用 電池電源	海外	照明	その他	消去又は 全社	合 計
- 売 上 高 -							
2009年度 ①	567	590	1,047	70	197	—	2,472
2008年度 ②	672	656	1,262	89	155	—	2,834
増減額 ①-②	-105	-66	-215	-19	42	—	-362
- 営 業 利 益 -							
2009年度 ①	18	69	69	- 10	- 13	- 17	115
2008年度 ②	16	99	51	0	- 6	- 17	143
増減額 ①-②	2	- 30	18	- 10	- 7	0	- 28

I -2. 事業セグメント別業績

自動車
セグメント



国内自動車電池事業

(億円)

	売上高	営業利益
2009年度	567	18
2008年度	672	16
増減(09-08年度)	-105	2

主な増減益要因

・数量の減少	-15
・鉛価格・売価変化	-30
・合理化、経費削減等	47

- ・ 新車用電池および関連機器が減少
- ・ 補修用電池は前期並みの数量を維持
- ・ 人員削減、工程改善および材料使用量低減等の合理化

I -2. 事業セグメント別業績

産業電池電源
セグメント



国内産業電池電源事業

(億円)

	売上高	営業利益
2009年度	590	69
2008年度	656	99
増減(09-08年度)	-66	-30

主な増減益要因

・数量の減少	-27
・鉛価格・売価変化	-6
・貸倒引当金	-8
・合理化、経費削減等	11

- ・ 電源装置および据置用電池は上期の落ち込みから下期に回復
- ・ フォークリフト用電池は販売数量減少
- ・ 設計合理化による生産性向上

I -2. 事業セグメント別業績

海外
セグメント



海外事業

(億円)

	売上高	営業利益
2009年度	1,047	69
2008年度	1,262	51
増減(09-08年度)	-215	18

主な増減益要因

・数量の増加	3
・鉛価格・売価変化	25
・為替換算差等	-10

- ・ 中国、東南アジアを中心に数量が増加するも、売上高は売価および為替の変化により減少
- ・ 営業利益は売価がダウンしたものの、鉛価格下落により増益

I -2. 事業セグメント別業績

照明
セグメント



照明事業

(億円)

	売上高	営業利益
2009年度	70	-10
2008年度	89	0
増減(09-08年度)	-19	-10

主な増減益要因

・数量の減少	-10
・貸倒引当金	-4
・合理化、経費削減等	4

- ・ 施設照明は前期並みを維持
- ・ 紫外線応用装置分野が大幅に減少

I -2. 事業セグメント別業績

その他
セグメント



その他

(億円)

	売上高	営業利益
2009年度	197	-13
2008年度	155	-6
増減(09-08年度)	42	-7

主な増減益要因

- ・ 特殊電池の販売不振 -5
- ・ その他 -2

- ・ EV用リチウムイオン電池の販売開始により売上高が増加
- ・ 特殊電池の販売不振

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

I -3. 貸借対照表・キャッシュフロー

貸借対照表

(億円)

	09/3末	10/3末	増減額		09/3末	10/3末	増減額
流動資産	1,173	1,289	116	負債	1,475	1,249	-226
・現金同等物の増加			107	・借入金の減少			-325
・売上債権の増加			19	・仕入債務(設備含む)の増加			82
・棚卸資産の減少			-25	・未払金の増加			13
固定資産	963	1,077	114	純資産	660	1,119	459
・有形固定資産の増加			87	・増資			331
・投資有価証券の時価評価等			34	・純利益および株主配当			43
				・評価差額および少数株主持分等			85
総資産	2,136	2,368	232	負債・純資産	2,136	2,368	232

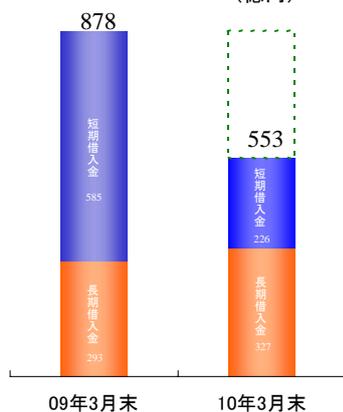
- ・総資産: 流動性の高い有価証券への運用、リチウムイオン電池事業への投資により増加
- ・負債: 増資資金を借入金の返済に充てたことを主因として減少

自己資本比率の改善 28.4% → 42.9% (前期比+14.5ポイント)

I -3. 貸借対照表・キャッシュフロー

有利子負債

(億円)



増減要因

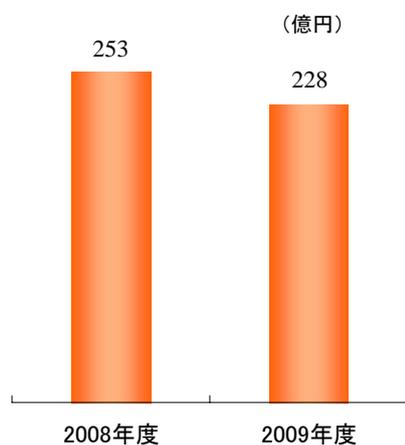
・営業C/F	228
・投資C/Fへの充当	-131
・増資資金	330
・現金及び現金同等物の増加	-107
・その他	5
減少額合計	325億円

- ・投資C/Fを営業C/Fで賄う
- ・増資資金を借入金返済に充当

I -3. 貸借対照表・キャッシュフロー

営業キャッシュフロー

(億円)



主な内訳

・ 経常利益	102
・ 減価償却費	94
・ 運転資金の減少 (売上債権、棚卸資産、仕入債務)	56
・ 法人税等の支払い	-32

・ 厳しい環境下、前期並みの
営業C/Fを確保

債務償還年数 2.4年

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

I -4. 2010年3月期の評価

ブリッジプラン2009の大幅達成

- ◎ 経営目標値の達成 **過去最高の純利益を更新**
- ◎ リチウムイオン電池事業の拡大に向けた順調な進捗
 - － EV用リチウムイオン電池の量産・販売を開始
 - － HEV用リチウムイオン電池生産体制の整備

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
ブリッジプラン	2,400	70	50	25
実績	2,472	115	102	65
達成率	103%	165%	203%	259%

財政状態の改善

公募増資の実施

200億円以上の営業C/Fの確保

- 
- ◎ 自己資本比率の大幅改善
 - ◎ 有利子負債の大幅削減

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

II -1. 2011年3月期事業計画

経営環境

世界経済は中国など新興国が牽引し穏やかな回復へ向かうが、日本経済の本格的回復には時間を要する。一方、地球温暖化問題、エネルギー問題を背景とした環境対応型社会への転換期でもあり、それらの需要が期待される。

基本方針

中国、アジアを中心に海外事業の拡大および国内既存事業の収益強化に努め、その収益を源泉として長期的な成長へ大きく踏み出すべくリチウムイオン電池事業を育成する。

前提条件

鉛価格 国内建値:250千円/t LME :2,300\$/t
為替レート 90円/\$

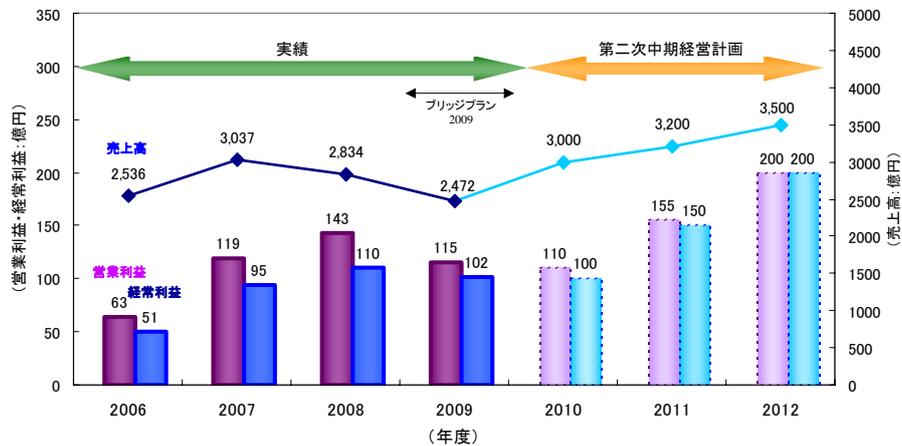
II -1. 2011年3月期事業計画

(億円)

	2009年度 (実績)	2010年度 (計画)	増減
売上高	2,472	2,800	328
営業利益	115	150	35
経常利益	102	140	38
純利益	65	80	15
純利益/株	16.32円	19.38円	3.06円
配当	6円/株	7円/株	

Ⅱ-1. 2011年3月期事業計画

業績推移・第二次中期経営計画



目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

Ⅱ-2. 事業セグメント別事業課題

セグメント別業績

(億円)

	国内自動車 電池	国内産業用 電池電源	海外	照明	その他	消去又は 全社	合 計
- 売 上 高 -							
2010年度 ①	600	700	1,110	90	300	—	2,800
2009年度 ②	567	590	1,047	70	197	—	2,472
増減額 ①-②	33	110	63	20	103	—	328
- 営 業 利 益 -							
2010年度 ①	25	90	75	5	- 25	- 20	150
2009年度 ②	18	69	69	- 10	- 13	- 17	115
増減額 ①-②	7	21	6	15	- 12	- 3	35

Ⅱ-2. 事業セグメント別事業課題

自動車
セグメント

国内自動車電池事業

(億円)

	売上高	営業利益
2010年度	600	25
2009年度	567	18
増減(10-09年度)	33	7



環境配慮型バッテリー
ECO.R series NEO

(重要課題)

- 環境対応車向け鉛蓄電池の拡大
 - － HEV、充電制御車用電池の販売拡大
 - － アイドリングストップ車専用電池のラインアップ拡充
- コスト競争力、ものづくり基盤の強化
 - － 経営資源および生産体制の最適化
 - － 生産ライン効率化等の合理化推進

II-2. 事業セグメント別事業課題

産業電池電源
セグメント



国内産業電池電源事業

(億円)

	売上高	営業利益
2010年度	700	90
2009年度	590	69
増減(10-09年度)	110	21



太陽光発電用
パワーコンディショナー (250kW)



LIM30H-8A
リチウムイオン電池モジュール

(重要課題)

- 拡販による増収増益
- 太陽光発電用大容量パワーコンディショナーの拡販
- 産業用リチウムイオン電池の拡販



31

II-2. 事業セグメント別事業課題

海外
セグメント



海外事業

(億円)

	売上高	営業利益
2010年度	1,110	75
2009年度	1,047	69
増減(10-09年度)	63	6



インド拠点
Tata AutoComp GY Batteries Ltd.

(重要課題)

- 自動車用電池: 成長市場であるアジアでのシェア維持・拡大
 - － 生産能力の増強
 - － 高温地域向け二重蓋電池など新製品の投入
- 産業用電池: 事業の拡大
 - － フォークリフト用電池の拡販(中国、タイ、その他)



32

II-2. 事業セグメント別事業課題

照明
セグメント



照明事業

(億円)

	売上高	営業利益
2010年度	90	5
2009年度	70	-10
増減(10-09年度)	20	15



セラミックメタルハライドランプ エコセラ

(重要課題)

- 施設照明: エコセラを軸とした販売拡大
 - 道路トンネルなど既存分野の強化
 - 水銀灯、高圧ナトリウムランプからの切替推進
- 紫外線応用機器: 新たなアプリケーションへの展開
 - 印刷・塗装のUV硬化装置や液晶パネル製造装置など既存分野の強化
 - 太陽電池パネル・半導体などの製造装置への新規拡大

II-2. 事業セグメント別事業課題

その他
セグメント



その他

(億円)

	売上高	営業利益
2010年度	300	-25
2009年度	197	-13
増減(10-09年度)	103	-12

<リチウムイオン電池事業> (億円)

	減価償却費
2010年度	50
2009年度	16
増減(10-09年度)	34

(重要課題)

- リチウムイオン電池の生産体制構築
 - EV用電池の生産能力増強
 - HEV用電池の工場稼働(2010年秋以降)
- リチウムイオン電池のコストダウン推進

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

Ⅲ-1. 成長分野の戦略

海外事業

成長市場での収益拡大

<課題>

- 生産・販売体制の強化
- 新技術・新製品の導入

<当社の優位性>

- 自動車電池・オートバイ用電池 アジアシェアNo.1
(自動車用:20%、オートバイ用:25%)※ ※: 2009年度当社推定
- アジアNo.1の生産・販売体制
- 卓越した技術力に裏付けられた高いブランド力

<売上・営業利益推移>

(億円)

年 度	実 績				計 画
	2006	2007	2008	2009	2010
売 上	908	1,338	1,262	1,047	1,110
営業利益	28	38	51	69	75

Ⅲ-1. 成長分野の戦略

海外事業

■ 生産・販売体制の強化

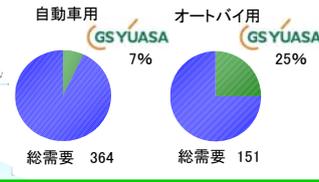
グローバルネットワーク 19カ国 42拠点

アジア地域 10カ国 30拠点

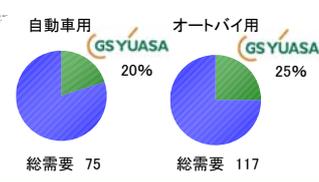


<2009年度の総需要※とシェア※>
(単位:百万個)

全世界



アジア地域10カ国



※: 当社推定

Ⅲ-1. 成長分野の戦略

海外事業

■ 生産・販売体制の強化

1) アジア拠点10カ国での事業計画 (関係会社含む)

(数量:千個 金額:億円)

	2009年(実績)	2012年(計画)	2009年比	増減	
自動車用電池	総需要 ※	75,000	99,000	132%	24,000
	販売数量 ※	15,000	20,000	133%	5,000
	シェア ※	20%	20%		
オートバイ用電池	総需要 ※	117,000	146,000	125%	29,000
	販売数量 ※	30,000	37,000	123%	7,000
	シェア ※	25%	25%		
売上高	1,200	1,600	133%	400	
営業利益	90	120	133%	30	
同上利益率	7.5%	7.5%			
設備投資計画(2010年~2012年度累計)		80			

※: 当社推定

2) ロシア・東欧、アフリカ、南米等 拠点外新興地域への拡販および進出可能性検討

III-1. 成長分野の戦略

海外事業

■ アジア地域拠点の生産・販売物量の拡大

・ 高速極板製造ラインの導入

- － エキスパンド極板[※]製造ラインをタイ、インドネシアの3工場へ導入

※ エキスパンド極板:
切り込みを入れた金属シートを引き伸ばして製造する電池の極板

- ・ 連続生産による生産スピードアップ
- ・ 薄型極板による軽量化

■ アジア市場のニーズに合致した新製品の導入

- ・ 二重蓋電池
- ・ 高温性能に優れた電池

目次

- I. 2010年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー
 - 4. 2010年3月期の評価
- II. 2011年3月期事業計画
 - 1. 2011年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題
- III. 成長分野の戦略
 - 1. 海外事業
 - 2. リチウムイオン電池事業

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

将来のコア事業の基盤構築

<課題>

- 車載用リチウムイオン電池の生産能力の拡大
- 産業用リチウムイオン電池の新用途開発

<当社の優位性>

- 大容量リチウムイオン電池の製品ラインアップ
- 高信頼・長寿命設計技術
- 縦巻き構造を生かした高性能電池

<売上・営業利益・設備投資金額推移>

(億円)

年 度	実 績		計 画
	2008	2009	2010
売 上	32	64	200
営業利益	-8	-12	-20
年 度	2008	2009	2010~2012累計
設備投資金額	39	135	500

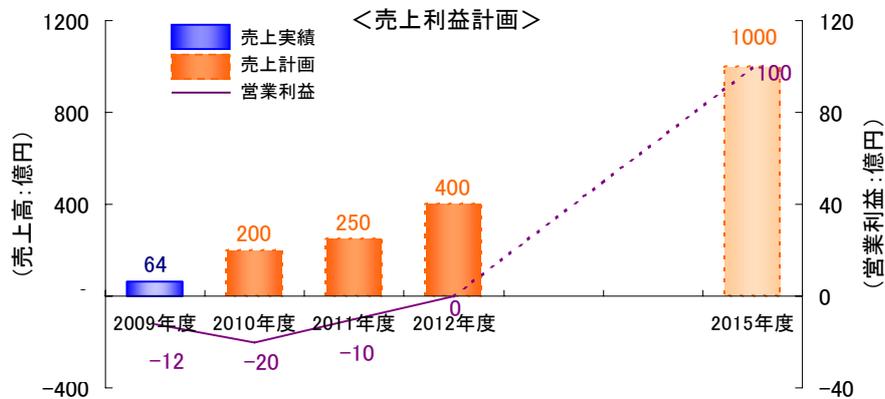


41

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

- 車載用リチウムイオン電池の生産能力の拡大



42

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

製品	用途	容量帯	正極材料	市場規模
LP 	1996年～製造・販売 携帯電話、 PC デジカメ 	0.5～1.5Ah	コバルト系	
LSE 	1999年～製造・販売 人工衛星 宇宙・海洋 	5～250Ah	コバルト系	
LIM 	1999年～製造・販売 鉄道、通信 機械 	30～80Ah	マンガン系	
LVP 	2008年～製造・販売 航空機 	10～65Ah	コバルト系 / マンガン系	
LEV.EH 	<i-MiEV用 LEV50> 2009年～製造・販売 <HEV>2010年～ EV,HEV, PHEV 	3～50Ah	マンガン系 / 3元系	
?	開発中 スマートグリッド用 負荷平準化	?	?	?

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

For EV

株式会社 リチウムエナジー ジャパン

事業内容：大型リチウムイオン電池の開発・製造・販売

本社：京都府

出資金：145億円（資本金:72.5億円）

設立：2007年12月12日

出資者：GSYUASA - (株)GSユアサ 51%

三菱商事 - 三菱商事(株) 40.7%

三菱自動車 - 三菱自動車(株) 8.3%

ターゲット：自動車メーカーへの拡販、産業用途での拡販を狙う



栗東工場完成予想図



電気自動車「i-MiEV」



EV用Li-ion電池セル「LEV50」

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

For HEV



株式会社 ブルーエナジー

事業内容: 高性能リチウムイオン電池の製造・販売および研究開発

本社 : 京都府

出資金 : 60億円 (資本金: 30億円)

設立 : 2009年4月1日

出資者 : GSYUASA - (株)GSユアサ 51%
HONDA - 本田技研工業(株) 49%

ターゲット: 自動車メーカーへの拡販を狙う



京都府福知山市の工場



HEV用Li-ion電池セル「EH6」



45

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

■ 車載用リチウムイオン電池の生産能力の拡大

用途	リチウムエナジー ジャパン				ブルーエナジー
	電気自動車				ハイブリッド車
生産拠点	草津工場 (第1期)	草津工場 (第2期)	京都工場	栗東工場	長田野工場
土地面積	20,000㎡		200,000㎡	56,000㎡	173,000㎡
工場面積	9,800㎡		13,000㎡	45,000㎡	30,000㎡
年間生産量	(i-MiEV) 2,300台分	(i-MiEV) 4,500台分	(i-MiEV) 11,000台分	(i-MiEV) 50,000台分	200,000~ 300,000分
	(計 67,800台分)				
投資額	33億円	42億円	67億円	375億円	250億円
	(計 517億円)				
量産開始	2009年6月	2010年6月	2010年12月	2012年度初頭	2010年秋



46

Ⅲ-2. 成長分野の戦略

リチウムイオン電池事業

■ 産業用Li-ion電池

ーリチウムイオン電池新用途の開発



蓄電池駆動電車システム
「NE Train スマート電池君」

- ・エネルギー効率ディーゼル車比1.5倍
- ・蓄電池のみで50km走行可能



定置型回生電力貯蔵装置
「E3 SOLUTION SYSTEM」

- ・架線電圧低下時にバッテリーより電力をアシスト
- ・架線電圧上昇時に回生電力を充電
- ・電圧低下対策と省エネに貢献



港湾用「ハイブリッド」
トランスファークレーン

- コンテナの巻き下げ減速時に発生するエネルギーを、高出力で繰り返し充電可能なリチウムイオン電池モジュールに蓄積し、巻き上げ作業を効率よくアシストするシリーズハイブリッドシステム
- ・エンジン最大出力を約3分1まで抑制可能
- ・黒煙排出量の低減効果も発揮



47

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



- ・連絡先
- ・株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室
- ・ 中野 宏治 ・ 山本 靖志 ・ 谷川 浩一
- ・ Tel : 075-312-1214
- ・ <http://www.gs-yuasa.com/jp>



48